

平成26年度事業報告書

I 概況

1. 入館者

平成26年度は、プロ野球80周年記念事業の一環としてNPB、選手会と協力して12球団の現役選手来館、また新入団選手の研修での博物館見学の実施、そして東京オリンピック野球競技復活に向けてのトークショーの開催など、新企画を実施して積極的な話題作りに努めました。前年に開催されたWBC、日本シリーズが無かったこと、長嶋茂雄氏の国民栄誉賞受賞記念品の「金バット」の展示効果が薄れたこともあり、前年比約20%減の92,572人(前年比△26,148人)となりました。但し、前年の特殊要因を除いた一昨年との比較では、7,884人増(9%増)、また直近5年間の中では前年度に次いで、二番目に高い数字となりました。今後は、展示内容の充実、各種イベント策を講じるとともに、修学旅行生の積極的な受入れなど、東京ドームホテル、東京ドームシティの営業施設と連携を密にし、入館者増を図ってまいります。

2. 維持会員

維持会員は法人49社(前年比、1社増)、個人会員92人(同、2人減)、ジュニア会員2人(同、同数)となりましたが、平成26年度末からの積極的な募集が奏功し、新年度に入り法人55社、個人会員98人に増えております。今後も、会員特典などの見直しを図り、ファン拡大に努めてまいります。

3. 野球殿堂

特別表彰の故・相田暢一氏の表彰式を、5月31日(土)に明治神宮球場で行われた東京六大学野球早慶戦の試合開始前に行いました。熊崎理事長から、ご長男の暢正氏へレリーフのレプリカ贈呈に続き、早稲田大学野球部・中村主将から花束が贈呈されました。また、競技者表彰の野茂英雄氏、秋山幸二氏、佐々木主浩氏の表彰式を、7月18日(金)に西武ドーム球場で開催されたオールスター第1戦の試合開始前に行いました。熊崎理事長から三氏へレリーフのレプリカ贈呈に続き、遠路米国よりご参加いただいたドジャースの元オーナー、ピーター・オマリー氏、ロッテの伊東勤監督、中日の谷繁元信選手兼任監督から各々に花束が贈呈されました。

平成27年の殿堂入りは、第54回特別表彰委員会から、故・林和男氏と故・村山龍平氏、第55回競技者表彰委員会から古田敦也氏が選出されました。これにより、殿堂入り顕彰者は競技者表彰86名、特別表彰101名、計187名となりました。

4. 普及・広報活動

野球振興につながる事案に積極的に対応し、また当館を紹介する記事、番組の取材や撮影に積極的に協力して広報に努めました。全国野球振興会(プロ野球OBクラブ)主催の全国少年野球教室にも、当館のパンフレットを13,000部提供するなど、開催に協力いたしました。

5. 資料収集

博物館の基礎ともなる展示資料及び図書収集を積極的に行いました。ご協力いただいた皆様には深く感謝いたします。

① 収集資料:3,073点(前年3,731点)

② 収集図書:1,128冊(前年1,430冊)

尚、資料収集に際し、寄贈受け入れ手順の組織化と整備、寄贈に際する諸権利の委譲の明確化等を目的として、平成26年12月1日に館内に「収集資料検討委員会」を設置いたしました。

6. 館外活動

各地で行われた、野球関係の展示会やイベントに企画段階から参画したり、実物資料の貸出やデータ提供などで協力いたしました。今年度は、とりわけプロ野球80周年関係事業に関する協力案件、例えばオールスターゲームや日本シリーズでの記念展示や、NPBアワーズにおける画像データや選出者ゆかりの品々の出品などを行いました。

7. その他

約3年ごとに改訂を行っている野球殿堂本の「2015年」版(定価:本体2,500円+税)を製作し、平成27年3月中旬から販売を始めました。